資料－２

「建設資材の需要見通し」及び「課題と対応状況等」について

（発注機関）

H25.5.17

平成 25 年度第 1 回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会

【別紙様式2】

機関・団体名　:農林水産省　東北農政局

建設資材の需要見通しについて

〇H24年末における6事業地区全体の執行率（工事費ベース）は49%。
・地区別執行率　:仙台東36%、河南100%、定川73%、名取川71%、亘理山元68%、同左農地海岸55%
〇建設資材の需要見込み
・ブロック類（積21千m2、張75千m2、連節19千m2、マット40千m2、海岸48千個（うちH26以降6千個））
・フルーム類（大型16千m（うちH26以降6千m）、L形7千m、U字等）
・矢板類（施工延長:RC矢板3千m、鋼矢板20千m）　・基礎杭（PHC600本、鋼管370本:25～65m継ぎ杭）
・生コン126千m3（うちH26以降21千m3）　・砕石、山土類（砕石3～5万m3、仮設道路材＋客土材用山土砂）
・仮設資材（鋼矢板4～5万トン、敷鉄板4～5万トン）
・今後本格化するほ場整備用資材（用水管・給水栓、暗渠管・材、排水フルーム、道路砕石等）

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
1. 資材の調達。（特に生コンと砕石類で工程の遅れが生じている　） 2. 事業費の増大（作業員及び資材の遠隔地調達、労務や資材価格の上昇）	1. 張ブロック及び仮設資材の多くは遠隔地調達で対応。生コンと砕石類は引続きこまめな情報や工程管理等で対応。農地客土用土は購入土のほか堆積土再利用及び宅地造成地の表土採取で対応 2. 遠隔地調達費の実績精算、インフレスライド等契約変更で対応。事業費・予算管理の徹底。

【別紙様式3】

機関・団体名　:震災廃棄物対策課

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
県が沿岸部において受託処理している災害廃棄物及び津波堆積物の処理後物として、再生資材として活用可能なものについては、発生市町の復興事業など公共事業の活用を基本として活用調整を行っているところである。しかし復興事業の活用可能時期が定まっていないところが多く、廃棄物処理の計画期間（平成26年3月まで）の利活用が困難な場合がある。	復興事業の活用が定まっていない市町にあっては、復興事業主体が再生資材としての活用を前提に資材置き場を確保し、県から資材を引き受けるなどの調整が必要と考える。

【別紙様式２】

機関・団体名　：農林水産部　農村振興課

建設資材の需要見通しについて

○　農業農村整備事業においては，復興交付金によるほ場整備事業が本格的に実施される。排水路においては２次製品である「排水フリューム」が用いられ不足が懸念される。

○　農地復旧事業において，地盤沈下箇所への盛土材が全体的に不足する状況。災害査定時の概算数量で２，４３０，０００m３必要。

○　農業農村整備事業では，県全体の需給資材量にはほぼ間に合うこととなるが，道水路等総合的な一般土木工事となるため，「国交省」「県土木部」等で資材不足が生じた場合は，全てのほ場整備工事において資材不足となる。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
コンクリート２次製品「排水フリューム」の不足懸念	各発注機関から建設工事発注見通し情報収集の際にコンクリート２次製品「排水フリューム」の概算使用本数等を聞き取り，関係機関等に情報提供している。
ほ場整備工事に伴う盛土材料の不足について	地盤沈下箇所に対する対策として，盛土による設計ではなく別途工法検討し，必要最小限のとなるような工法により実施設計することとしている。
ほ場整備事業に伴う全体的な資材不足	他発注機関や関係団体等と情報交換し調整していきたい。

【別紙様式２】

機関・団体名　：農林水産部　漁港復興推進室

建設資材の需要見通しについて

・平成２５年度についても，引き続き，生コン，石材等の資材供給不足が懸念される。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
・生コンについては，供給量の不足が課題となっている。	・コンクリートミキサー船の利用と生コンプラントからの供給を効率的に調整することにより，対応をしている。
・捨石の県内供給が難しい状況となっている。	・県外からの搬入により対応している。

【別紙様式２】

機関・団体名 ： 宮城県仙台土木事務所

建設資材の需要見通しについて

〇アスファルト合材については、必要な総量は173千t程度であり、６月までは15,000t/月程度であるが、７月以降は4,000～8,000t/月で推移する見通し。
〇生コンクリートについては、必要な総量は395千m3程度であり、上半期は3,000m3/月程度であるが、下半期は増加し、特に１２月以降は10,000～15,000m3/月となる見通し。
〇生コンクリート（二次製品への転換）については、必要な総量は310千m3程度であり、年内は1,000～3,000m3/月程度であるが、H26年2月以降は13,000m3/月程度となる見通し。
〇砕石については、必要な総量は407千m3程度であり、年度内を通して6,000～10,000m3/月となる見通し。
〇捨石については、必要な総量は358千m3程度であり、上半期は3,000m3/月以下であるが、年末から増加し、特にH26年2月以降は25,000m3/月程度となる見通し。
〇鉄筋については、必要な総量は82千t程度であり、７月以降5,000～6,000t/月で推移する見通し。
〇鋼矢板（本設）については、必要な総量は60千t程度であり、上半期は300t/月以下であるが、下半期は増加し、特に１２月以降は3,000t/月程度となる見通し。
〇仮設鋼矢板については、今後総量で10,000t程度が必要となる見通し。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
〇平成２５年度下半期からの復旧・復興工事の本格化に伴い、実際の資材供給体制がどのようになるのか見通せていない。	〇今後の動向を注視するとともに、工事の平準化についても可能な範囲で検討していきたい。
〇仙台市内（特に沿岸）の生コンクリートについて、平成２５年４月以降供給が困難になってきている。施工業者からは、仙台市の地下鉄工事に優先供給されているようだとの報告を受けている。	〇対応できるものは二次製品への転換も積極的に図るとともに、資材供給調整も模索したい。

【別紙様式2】

機関・団体名 ： 東部土木事務所

建設資材の需要見通しについて

「復旧・復興事業に伴う建設資材の需要動向調査」に基づいた建設資材の需要見通しは，次の通りである。

AS合材については，平成28年度までに78万tを使用する予定だが，路面災害復旧工事が完了する予定の平成25年度の使用予定量は47万tとなり，平成26年度以降は下降気味となる見込みである。

生コン及び盛土（不足土）関係については，平成28年度までに生コン145万m^3，盛土1,270万m^3を使用する予定だが，その半分程度が復興事業及び「協議設計」の災害復旧事業の本格化となる平成26年度に使用される見込みである。

石材関係については，平成28年度までに341万m^3を使用する予定だが，132万m^3～84万m^3の推移で使用される見込みである。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
捨石について，現在までのところ何とか需要量は確保できるものの，単価が特に陸上投入の場合，トラック運搬費が上昇していることから，運搬距離が遠くなるほど宮城県資材単価と現場取引価格が大きく相違している。	事業管理課に相談したが、現在当資材については、スライド等の対象品目になっていないことなどから、単品スライドについての対応は現時点では難しいとの回答を得ている。 今後の対応としては、県として資材流通単価を詳細に調査し、宮城県資材単価への反映を行う必要がある。
仮設の鋼矢板について，重仮設業協会の会員企業との取引がないとのことで，リース資材の調達が困難である。	やむを得ず，鋼矢板を購入し対応している。

【別紙様式2】

機関・団体名　：気仙沼土木事務所

建設資材の需要見通しについて

建設資材の動向と需給見通し（H,25,4，１現在）

気仙沼土木及び気仙沼市及び南三陸町の集計結果は次のとおり
○アスファルト合材の平成25年度需要量は2万2千tとなっており、7月,8月,9月において月4千tの使用を見込んでいる。平成26年度は約8万t,平成27年度は約45千tと見込まれる。
○生コンクリートの平成25年度需要量は176千m3となっている。7月の4千m3を皮切りに順次増加し.ピークは12月から3月で月2万m3となっている。平成26年度は約67万m3.平成27年度は50万m3を見込んでいる。
○コンクリート2次製品への転換見込み量は、平成25年度は1万m3であるが、平成26年度は約48万m3、平成27年度は約53万m3と大幅増加の見込み
○砕石は平成25年度で約10万m3であり7月から月平均9千m3となっている。平成26年度は約60万m3、平成27年度は50万m3となっている。
○捨石は平成25年度約20万m3となっており、10月から3月にかけて集中的な需要が見込まれてている。平成26年度は約50万m3、平成27年度は約30万m3が見込まれている。
○防潮堤盛り土等の不足土は約950万m3となっている。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
○アスファルト合材の安定供給 ・道路災害復旧工事が本格化してきており、交通解放しながらの施工となり、出荷時期の集中が懸念される。	
○生コンの安定供給 ・気仙沼大島島内の需要量が災害復旧や大島架橋関連で約15万m3が必要となる。 ・消波ブロックや被覆ブロックの製作仮置ヤードの確保に苦慮している。また陸上運搬、岸壁積み込み、海上運搬、海上据え付けなど適切な施工管理が重要である。	○大島生コンプラントの開設し、4月から出荷を開始している。また、歌津プラントも予定されており、安定供給におおきな期待がよせられている。

【別紙様式２】

機関・団体名　：　北部土木事務所

建設資材の需要見通しについて

北部土木管内では、凍上災の復旧工事が5月から本格的に始まる予定であり、１２月までに約5万トンのアスファルト合材及び約5万m3の砕石の使用が見込まれているが、今のところ工事に支障が生じそうだとの情報もない。

また、大崎市民病院や古川東中学校の建築で、５月から８月にかけて月に7千から１万m3の生コンクリート及び月約１千トンの鉄筋の使用が見込まれているが、今のところ工事に支障は生じない見込みである。

※様式１の残土量は、管内での流用及び管外へ搬出し流用する土量（大曲地区へ約２４千m3）も含む。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
特になし	

【別紙様式2】

機関･団体名 ： 仙 台 市

建設資材の需要見通しについて

主要資材	単位	需要量合計	平成25年度											H26年度	H27年度	H28年度
			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
アスファルト合材	t	215,052	6,164	5,592	6,004	6,977	8,110	6,604	6,977	7,640	8,618	10,995	10,332	46,935	35,287	48,818
生コンクリート	m3	471,759	29,231	41,871	41,965	40,615	38,213	28,665	33,228	27,883	24,352	22,634	17,163	110,921	13,946	1,073
生コンクリート（二次製品への転換）	m3	2,595	391	12	43	58	96	310	250	291	248	238	13	489	95	60
砕石	m3	340,621	11,059	11,297	13,123	17,309	29,487	34,145	31,970	16,585	14,613	10,947	9,451	54,760	37,192	48,684
捨石	m3	3,211	130	1,362	220	343	160	326	60	66	160	248	136	0	0	0
鉄筋	t	42,333	5,213	4,375	3,802	3,241	2,344	2,680	1,891	1,766	2,105	1,523	1,272	5,559	6,472	90
鋼矢板（本設）	t	2,136	0	0	2	106	21	161	248	65	133	18	3	1,380	0	0
盛土材（不足土）	m3	1,813,122	3,007	5,553	11,028	11,504	7,907	39,431	47,256	86,689	86,564	94,096	169,266	683,737	469,116	97,969
残土	m3	228,082	13,405	10,670	12,670	16,169	29,436	24,718	19,742	16,369	11,320	10,762	6,032	34,337	11,733	10,720

○南蒲生浄化センター災害復旧建設工事の本格化（H25･H26）　○復興（災害）公営住宅新築工事の本格化（H25･H26）　○造成宅地滑動崩落緊急対策工事の本格化（H25）

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
○生コン出荷時期及び出荷量の調整による工期の遅延 ○生コンや砕石など調達が少量の場合，受注者自らプラントに受取りによる作業効率の低下 ○生コンの需給バランスを最適に保つための課題 ･工程調整による需要量の平準化 ･生コン打設時間帯の情報共有化 ○需給予測の精度向上	○遠隔地からの建設資材調達に係る変更契約の運用を開始（対象資材：生コン，As合材，石材，仮設材） ○コンクリート二次製品の活用（転換）⇒H25.3庁内関係通知発出 ○公設プラントの建設の必要性を検討 ○工程調整による需要量の平準化に向けた検討

【別紙様式2】

機関・団体名 ： 宮城県道路公社

建設資材の需要見通しについて

○当公社では、復興道路である三陸道の一部「仙台松島道路」の4車線化事業を推進している。
○4車線化事業の工事ピークは今年度（H25年度）であり、来年度（H26年度）末には全線4車線供用の予定である。
○このため、今年度から来年度にかけて、アスファルト合材（8万t）、生コン（1万m3）、砕石（5万m3）など、多くの建設資材を必要としている。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
■資材供給に関して今のところ工事進捗に影響を及ぼすような状況にはないが、今後の供給状況に不安は感じている。	○資材（路盤材）のストックヤードを設け、可能な限り資材を事前調達している。
■コンクリート2次製品について、融通（数量の増加、規格の変更）が利きづらくなっている。	○コンクリート2次製品の変更が生じないよう、設計図書と現場状況の事前確認を重点的に実施している。

【別紙様式２】

機関・団体名　：東日本旅客鉄道㈱　仙台支社

建設資材の需要見通しについて

平成25年度から仙石線の復旧工事に使用する建設資材として、ｱｽﾌｧﾙﾄ合材115t、生ｺﾝｸﾘｰﾄ3,500m3、砕石11,927m3、鉄筋7t、鋼矢板1,627t、盛土材3,900m3の需要を予定しています。
また、今後復旧工事が本格化し、施工内容によっては数量の変更が伴う可能性もあります。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
・現在は砕石、生ｺﾝｸﾘｰﾄ等建設資材の需要の問題は発生していませんが、今後復旧工事が輻輳した場合、建設資材が円滑に供給されないことにより、工期が遅れる事象が発生することになれば、このことが課題です。 ・砕石及び盛土材の調達において、大手発注の震災復旧にﾀﾞﾝﾌﾟが取られてしまい、砕石等を運搬するﾀﾞﾝﾌﾟの手配が取れなくなり、工事が遅れる事象が発生することになれば、このことが課題です。 【要望】 今後の建設資材の需要見込みに対しての供給体制等の開示をお願いいたします。	・各発注機関は、建設資材の使用時期と必要量を開示することで、その情報を基に各建設資材ﾒｰｶｰが供給量の調整を図ります。 ・計画的に砕石及び盛土材調達計画を供給会社に通知して対応を図ります。

【別紙様式２】

機関・団体名　:JR東日本　東北工事事務所

建設資材の需要見通しについて

仙石線復旧工事にて下記の建設資材の需要が見込まれている。

生コン：10,000m3　平成25年度
砕石　：10,000m3　平成26年度
砂　　：　500m3　平成25年度

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
生コンの出荷制限により、1日最大300m3程度と制限されている。高架橋の上部工は1回の打設で550m3程度であるため、分割打設を余儀なくされている。そのため、工期に大きく影響する可能性がある。 また、生コンの需要に伴い洗い砂の入手が非常に困難になっている。そのため資材単価も急騰している。 【要望】 生コンの出荷制限解除等、資材の安定供給対策をお願いしたい。	上部工は分割打設のための図面を作成中。 入手箇所を模索中、代替で砕砂で対応できないか検討中。

【別紙様式2】

機関・団体名 ：東北電力株式会社土木建築部

建設資材の需要見通しについて

1．恒常的な工事量は減少傾向であり，中長期的には建設資材の需要量は震災前の計画レベルに戻っていない。
2．電源新設工事などでは短期的に建設資材を要することから，請負工事会社を通じて供給会社と十分な調整を図り，建設資材を調達している。

課題と対応状況等について

課　題	対応状況等
1．女川原子力発電所の各種工事において，契約後に生コン日供給量の上限値が設定されたことにより，つぎの課題が発生している。 ①工程の遅延 ②コンクリート価格の上昇	1．女川原子力発電所における工事間でコンクリート供給の優先順位を設定し，供給条件の範囲内での施工としている。